口永良部島の火山活動解説資料（平成 21 年６月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

噴煙活動はやや活発な状態で推移しました。
口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね１km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。
平成 21 年３月 18 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○　６月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図２）

遠望カメラ（新岳火口の北西約３km）の観測では、新岳（しんだけ）火口から白色噴煙が時々観測されており、８日の観測では火口縁上 300mに達するなど、噴煙活動はやや活発な状態が続いています。

・地震や微動の発生状況（図２、図４）

火山性微動は４月から増加していましたが、５月上旬をピークに減少して５月 23 日以降（５月：93 回）観測されていません。火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は主に新岳火口直下のごく浅いところに分布し、これまでと比べて特段の変化はありませんでした。

・地殻変動の状況（図２、図３）

GPS 連続観測では、2008 年９月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が、2009 年２月以降鈍化し、６月に入り認められなくなりました。

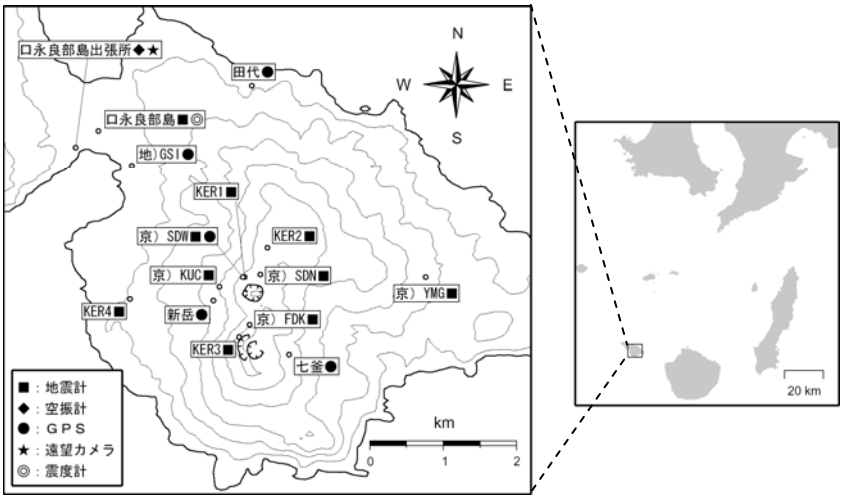


図１　口永良部島　観測点配置図

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（http://www.fukuoka-jma.go.jp/）や気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。
次回の火山活動解説資料（平成 21 年７月分）は平成 21 年８月７日に発表する予定です。
※この資料は気象庁のほか、京都大学、国土地理院及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

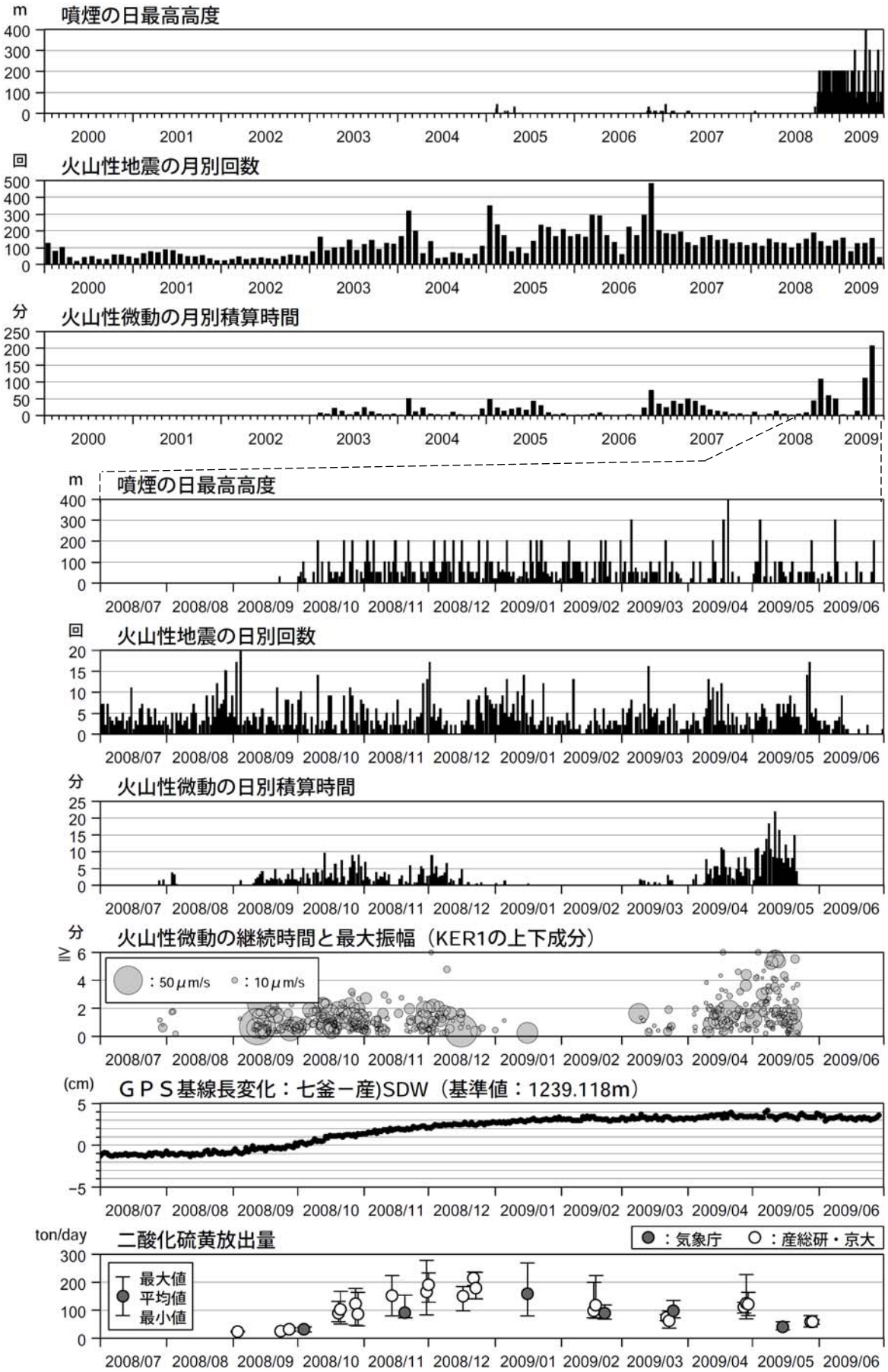
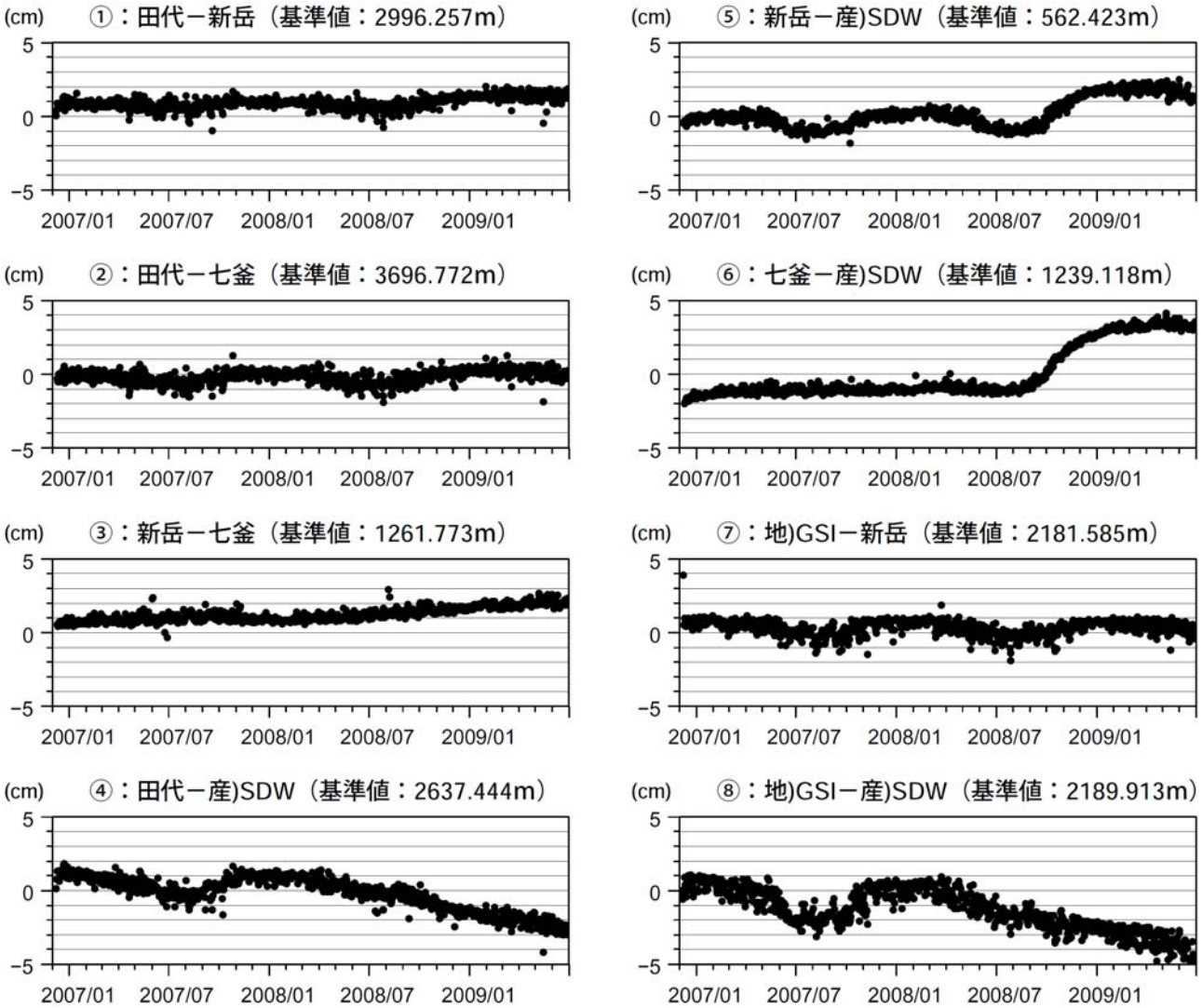


図２※　口永良部島　火山活動経過図（2000 年１月～2009 年６月）

・噴煙活動はやや活発な状態が続いています。
・火山性微動は４月以降やや多い状態が続いていましたが、５月 23 日以降観測されていません。
・火山性地震は少ない状態で経過しました。
・二酸化硫黄の放出量は 2008 年 12 月をピークに減少しています。



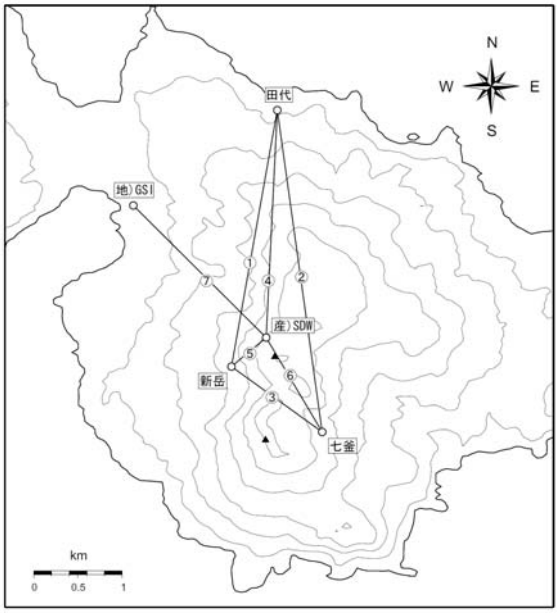
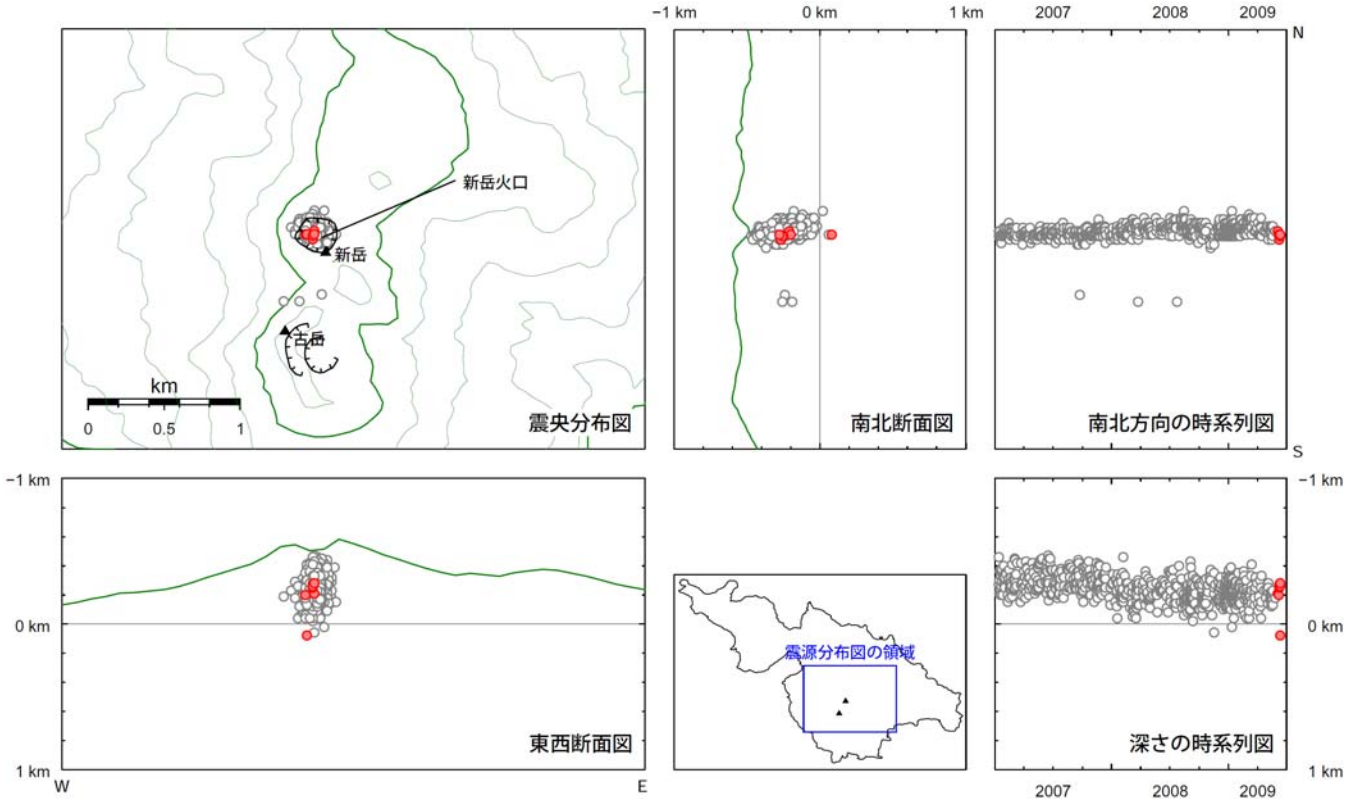


図３※　口永良部島　GPS 連続観測による基線長変化（2006 年 12 月～2009 年６月）
2008 年９月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が、2009 年２月以降鈍化し、６月に入り認められなくなりました。



●：2009 年６月の震源
○：2007 年１月～2009 年５月の震源

図４※　口永良部島　震源分布図（2007 年１月～2009 年６月）
火山性地震の震源は主に新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。